

こんなことに配慮しましょう

聴覚障がいのある人でも、聞こえの程度や聞こえなくなった時期などによって、それぞれコミュニケーションの手段が異なります。聴覚障がいのある人に情報を求められたら、話の内容を紙に書いたり、ゆっくりはっきり話したり、身振りあるいは手話などを使ったりして伝えてください。相手に伝えようという気持ちが大切です。



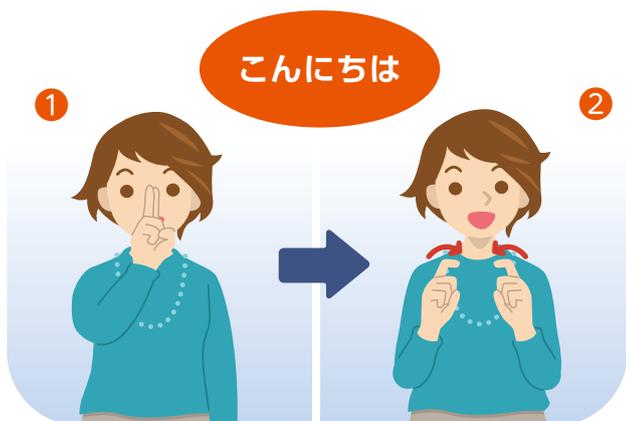
耳マーク(31ページ)や手話などによって聴覚障がいのある人だと分かったら、筆談など相手の望む方法でコミュニケーションをとってください。

また、マスクをしている場合は口から外して、正面から口の動きが分かるように大きく口を開けてゆっくり話してください。

書くものを持っていない時は、携帯画面に文字を入力して見せる方法もあります。筆談できるアプリもあります。



手話を使用している人とは、何かひとつでも手話を使って会話ができるといいですね。手話は手だけを使うのではなく、表情も一緒につけるとより伝わりやすくなります。ただし、聴覚障がいのある人全員が手話を使えるわけではないので、注意してください。



- ① 右手の人さし指と中指を重ねて額の中央部に当てる。(時計の長針と短針が、12時を指していることを表わす)
- ② 両手の人さし指を立てて向かい合わせた後に、そのまま両方の指を曲げる。



- ① 右手の人差し指を伸ばして、左右に2回位振る。
- ② 左手の親指だけ伸ばして、右手のひらで2回程、押します。(相手を助けるという表現)

音声コード

